



あきたのジオパーク みどころ ブック



発行 秋田県企画振興部地域活力創造課
 企画・制作 NPO法人あきた地域資源ネットワーク
 制作協力 秋田県ジオパーク連絡協議会

あきたのジオパーク みどころ ブック



秋田県企画振興部地域活力創造課
 NPO 法人あきた地域資源ネットワーク



あきたのジオパークへ行こう!

2011年(平成23年)9月、秋田県で初めて「男鹿半島・大潟ジオパーク(男鹿市・大潟村)」が日本ジオパークに認定されました。翌年9月には「八峰白神ジオパーク(八峰町)」と「ゆざわジオパーク(湯沢市)」が認定され、秋田県に3つの日本ジオパークが誕生しました。国内でジオパークが3カ所以上ある都道府県は、北海道と秋田県だけ。まさに秋田県はジオパークの宝庫です。

しかし、まだ“ジオパーク”ということばは一般に広く知られていません。「ジオパークなんて難しそうだし、よくわからない」と思っている人もおられます。ですが、実は日ごろからみなさんはジオパークに足を運んでいます。普段何気なく見ている山や川、海岸に落ちている石ころ、温泉、地域に伝わる伝説、さらに秋田の大地が育んだ海や山の幸、それを提供してくれるお店までもがジオパークの一部だとしたら、どうでしょうか。難しいと思っていたジオパークが、とても身近なものに感じてくるかもしれません。

秋田県にある3つのジオパークは、それぞれに異なる大地の成り立ちがあり、今の姿になるまでの物語(ストーリー)を持っています。この本では、そうした「あきたのジオパーク」の見どころを再発見するためのヒントや楽しみ方を紹介しています。この本を持ってジオパークにでかけ、大地の歴史と不思議さを五感で感じとってみてください。数千万年にわたる大地の営みを観察できる地層や奇岩怪石、ブナの森や山野草、おいしい湧き水と食べものが、みなさんとの出会いをこころまちにしています。

CONTENTS 目次

あきたのジオパークへ行こう!.....	1
ジオを見る	3
ジオを楽しむ.....	13
ジオを歩く.....	25
おらほのジオサイト.....	33
ジオを学び ジオを味わう	41
あきたのジオパークマップ.....	50
八峰白神ジオパークマップ.....	51
男鹿半島・大湊ジオパークマップ...	52
ゆざわジオパークマップ.....	54
ジオパーク Q&A.....	55



(八峰白神
ジオパーク)



(男鹿半島・大湊ジオパーク)



(男鹿半島・大湊
ジオパーク)



(ゆざわジオパーク)

本書を利用するにあたって

- 移動手段について
本書で紹介している場所までは、車での移動を基本としています。
- 掲載情報について
掲載の情報は、2015年2月現在のものです。施設などの情報は変更される場合がありますので、ご利用の際は各施設などにご確認ください。
- お出かけ前にチェック!
 - ・植物や岩石、化石などは持ち帰らないようにしましょう。
 - ・ジオサイトでは、野外活動ができる靴と服装を心がけましょう。
 - ・日差しが強い日に観察を行なうときは帽子をかぶり、水分補給をしっかりとしましょう。
 - ・散策路や岩場での転倒、落石に注意しましょう。
 - ・ごみは持ち帰りましょう。

ジオを見る

大地の鼓動を感じよう。

- 絶景ジオサイト p4
- 四季のジオサイト p10
- 人面岩を探せ! p12



榎海岸の柱状節理(八峰白神ジオパーク)

青森県と境を接する秋田県北部にあり、世界自然遺産白神山地の西の端に位置する八峰白神ジオパーク。二ツ森から展望する白神山地は、このジオパークならではの絶景です。

海岸に沿って、花崗岩や柱状節理など特徴的な岩石や地層・地形のジオサイトが点在し、それらをめぐれば、スケールの大きな大地の成り立ちを秘めたジオの景観を楽しむことができます。

椿海岸の柱状節理

MAP-P51 16

詳しい説明は「ガイドのイチ押しジオサイト」(p34)を参照。



チゴキ崎

MAP-P51 4

八峰白神ジオパーク随一の夕日の絶景スポットで、白神山地を背にしたチゴキ崎灯台が岬の上に建っています。写真Aはその灯台から望んだチゴキ崎の突端。写真Bは反対にそこから灯台方向を望んだものです。突端まで歩いていくことができ、溶岩や火山灰が固まってできた岩場では、複数の岩脈（「ジオのふしぎスポット」p19参照）が見られます。



新緑の二ツ森登山



登山道のブナ林

二ツ森

MAP-P51 11

白神山地の西側にあたる二ツ森(1086m)は、秋田県と青森県に広がる世界自然遺産地域を一望できるベストビューポイント。山頂までは林道終点の登山口から原生的なブナ林が残る登山道を抜け、急斜面を登って約50分。白神山地のなかでは比較的楽に絶景を満喫できる、初心者・中級者向けのトレッキングコースです。

板貝海岸

MAP-P51 1

国道101号の県境を越えて青森県に入ると、青い海と白い波を引き立てるような白やピンク色の岩礁地帯が広がる雄大な風景が現われます。

この海岸を形づくっているのは花崗岩類で、「ごま石」と呼ばれている花崗閃緑岩も見られます。これらの岩石は、マグマが地下深いところで冷えて固まったもので、長い間に大地が盛り上がり、波や風雨で削られたりして地表に現われました。



板貝海岸の花崗閃緑岩



花崗閃緑岩(ごま石)



しらたき 白瀑

MAP-P51 10



豪快でありながら神秘的な雰囲気漂う滝は、海底での火山活動でできた「素波里安山岩体」と呼ばれている安山岩と凝灰岩(火山灰が降り積もり、それが固まってできた岩石)でできています。この滝をご神体としている白瀑神社の8月1日の例祭は、男衆が神輿をかつぎながら滝つぼに入る「神輿の滝浴び」で有名です。

男鹿半島・大潟ジオパーク

MAP-P52、53
男鹿半島・大潟ジオパークマップ

日本列島のもとなる大地がまだユーラシア大陸の東の縁にあったころから、日本海の誕生を含む、過去7000万年の大地の成り立ちをほぼ連続して観察できる地層がそろっている男鹿半島。断崖絶壁や奇岩怪石、火山地形など数々の絶景ジオサイトが目を楽ませてくれます。

また、八郎潟干拓によって誕生した日本最大の干拓地大潟村では、人と大地が育んだジオの景観を、四季を通じて見ることができます。

かんぷうざん 寒風山の第一火口と第二火口

MAP-P52 ⑰ 詳しい説明は「ジオトレッキングにでかけよう」(p28)を参照。



第二火口

第一火口

あんでん 安田海岸

MAP-P52 ⑨

海に沿って500m以上続く^{がけ}崖に、およそ60万年あまり前から8万年前までの地層がほとんど切れ目なく続く、まさに地層の博物館のようなところ。地層の中に残されている貝化石、火山灰、植物が炭化した垂炭などから、男鹿半島の大地の歴史を知ることができます。

途中に小さな川があり、波打ち際を歩くので、見学の際は長靴が必要です。



貝の化石を含む地層



洞爺火山灰の層



鹿落としから望む水島。断崖付近は絶壁になっているので、足元に十分注意しましょう



入道崎の落日

入道崎の鹿落とし

MAP-P52 ①

入道崎の北側にある断崖は、火山の噴出物がまだ熱いうちに積み重なって固まった溶結凝灰岩^{ようけつぎょうかいがん}でできています。かつて男鹿半島に生息していた鹿を、この崖から追いつれしたことからその名がつけました。

ここからは、波の侵食で平らになった水島と呼ぶ岩礁のほか、遠くに白神山地を望むことができます。また、入道崎は夕日の絶景スポットとして知られています。

だいざんきょう 大棧橋

MAP-P52 ⑩

男鹿半島西海岸は、激しかった火山活動を物語る地形や岩石が絶景をつくり、迫力あるジオの景観を生みだしています。大棧橋もそのひとつで、火山噴出物(溶岩)のやわらかい部分が長い時間をかけて波で侵食され、天然の石橋となりました。陸上から望むのは、県道の芦の倉駐車場が適しています。



大棧橋



展望デッキからの眺望



展望デッキ



南部排水機場

MAP-P53 ⑳

大潟村の人びとは、もとは湖の底だった標高0m以下の大地に暮らしています。そのため、村内2カ所に排水機場を設け、幹線排水路に集められた干拓地内の水を休みなく汲みだしています。南部排水機場は、平日であれば内部の見学が可能で、展望デッキからは広大な干拓地と排水路、八郎潟の残存湖(八郎湖)を眺めることができます。

●見学のお問い合わせ
☎0185-46-2661 (八郎潟基幹施設管理所)

かわらげ 川原毛大湯滝

MAP-P54 ⑧

詳しい説明は「ジオトレッキングにでかけよう」(p26)を参照。



(「2014あきたのジオパークフォトコンテスト」優秀賞受賞作品)

秋田県の内陸南部に位置する湯沢市全域をエリアにしているゆげわジオパーク。「いにしへの火山の恵み あつき雪 いかして築く 歴史と暮らし」というキャッチフレーズが、このジオパークの大地のストーリーをわかりやすく表わしています。

鉱山、地熱、温泉、湧水など大地の恵みと、その上に築かれた人びとの営みが相まって、四季折々、美しいジオの景観を見せてくれます。

こけぬま かぶとやま 苔沼と兜山

MAP-P54 ⑦

苔沼のほとりにある牧草地の丘を上ると、眼下に苔沼、その上方に兜山(669m)が見える絶景が広がっています。この一帯は木地山高原と呼ばれ、標高550mほどの草原帯の高原に、苔沼、袴倉沼、田螺沼など大小6つの沼が点在しています。

これらの湖沼群は、山地が地すべりを起こしてできた^{くぼ}凹地に水がたまり、川がせき止められてできたと考えられています。(苔沼の説明はp17参照)



秋の苔沼



兜山の柱状節理
(柱状節理の説明は
p35参照)



兜山

いちのつ 市野吊り橋

MAP-P54 ⑩

小安峡温泉と皆瀬ダムのおぼ中間の皆瀬川に架かる吊り橋。ダムの水位が低いときは、三途川層の露頭(地層や岩石が露出している場所)の絶好の観察ポイントになります。(三途川層の説明はp43参照)



砂や泥、火山灰などが交互に重なり合う三途川層の露頭



院内石採石場跡(「ガイドのイチ押しジオサイト」p36参照)から望む院内カルデラ

院内カルデラ

MAP-P54 ⑨

湯沢市南西部の院内地区は、院内の町並みを中心にした盆地状の地形をしています。この地形はかつて起こった大規模な火山噴火によりへこんだもので、院内カルデラと呼ばれています。

※カルデラ—火山活動によってできた大きな凹地のことで、一般には直径2km以上の陥没地形をいいます。

おやすきょう 小安峡不動滝

MAP-P54 ⑬

不動滝の北展望台から下流の皆瀬川を眺めると、切り立ったV字谷の小安峡にいくつもの滝が流れ落ちています。ところが不動滝を境に、上流では深い峡谷にはなっていません。この周辺で湧いていた温泉によって地層(三途川層)が固く変質したため上流部は侵食されず、その結果生じた高低差が不動滝となったのです。



不動滝北展望台から望む小安峡上流部。左手前の滝は雌滝(女滝)



不動滝。雄滝ともいう



不動滝の落ち口

男鹿半島・大潟ジオパーク

二ノ目潟と戸賀湾

MAP-P52 ⑥⑦

八望台の展望台から西方を望むと、眼下に二ノ目潟、その海側に楕円形の戸賀湾が広がっています。二ノ目潟のほかに一ノ目潟、三ノ目潟があり、まとめて「男鹿目潟火山群」と呼ばれる3つの目潟は、火山の爆発的な噴火（マグマ水蒸気爆発）によってできた火口に水がたまったもので、マールといいます。マールは東北では「男鹿目潟火山群」が唯一で、戸賀湾もほぼ同じようにしてできた火口の一部が入り江になったものです。



秋の夕景

同じ目線上に火山噴火でつくられた潟（淡水湖）と湾（海水）が並ぶさまは、全国でも珍しいジオの風景。知る人ぞ知る夕日の絶景スポットでもあり、日の入りを迎えると湖面と海面に陽光が映え、刻々とあたりが変化して幻想的な雰囲気包まれます。



八峰白神ジオパーク

鹿の浦展望所

MAP-P51 ⑱

日本海に小さな岬のように突き出た鹿の浦は、八峰町の海岸線のほぼ中央部にあり、魚岩のある泊海岸を眼下に、椿海岸や雄島、岩館海岸など、八峰白神ジオパークの海岸部をパノラマで眺望できる絶景ポイント。おだやかな夏の海と季節風が吹き荒れる冬の海との対比、そして海岸沿いに伸びる段丘地形を観察するのも絶好の展望地です。



鹿の浦展望所からの眺望。波などによってけずられた海食崖と階段状の海岸段丘の地形が見られます。



泊海岸の魚岩
MAP-P51 ⑳

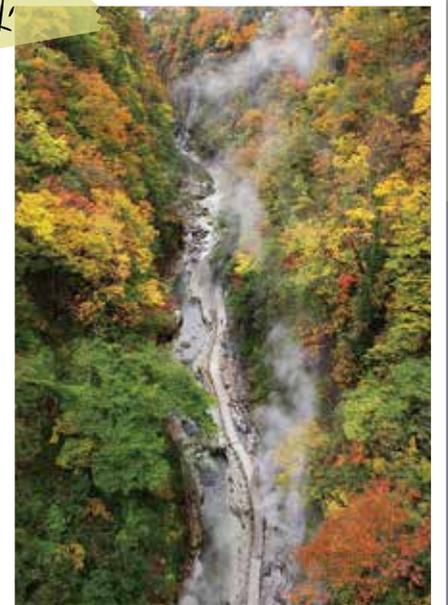


大きく口を開けた魚のように見える奇岩で、角礫凝灰岩でできています。

秋



河原湯橋の上から望む小安峡は、高所が苦手な人は足がすくむほど迫力満点。谷底の岩壁から高温の蒸気と熱湯が噴き出す大噴湯も見どころです。（大噴湯については「ジオのふしぎスポット」p16参照）



ゆざわジオパーク

小安峡

MAP-P54 ㉔

小安峡は皆瀬川が長い年月をかけて刻んだ8kmにも及ぶV字谷です。紅葉が美しいことで知られていますが、春から初夏にかけての新緑や、峡谷にしがっこ（つらら）が下がる冬も見のがせない、ゆざわジオパークを代表するジオサイトです。



(撮影:佐藤恵)

(撮影:佐藤一美)

人面岩を探せ!

八峰白神ジオパーク

白神の スフィンクス

MAP-P51

白神のスフィンクスとは、滝の間海岸にある人面岩のことで、地元の人たちは獅子岩と呼んでいました。この名で呼ばれるようになったのは数年前からです。荒海の中にそびえたつ姿が白神山地を見守る守護神のように見えることから、八峰白神ジオパークのシンボルとして親しまれています。



【見つけるためのヒント】

白神のスフィンクスは「ハタハタ館」のほぼ真下、滝の間海岸に沿った車道脇にある公衆トイレ付近から岩場に下りたところにあります。探す時はトイレを目印にするとよいでしょう。



スフィンクスを形づくっている地層は、日本列島がユーラシア大陸から離れ、日本海が誕生したころ盛んに活動していた海底火山の噴出物でできています。硬い溶岩と比較的やわらかい凝灰岩が波などの侵食を受け、長い時間をかけこのような自然の彫刻を生み出したというわけです。この岩は見る場所によって顔がいくつにも見える不思議な岩です。スフィンクスAの顔の下にもうひとつの顔Bが見えます。また、尾にあたる部分Cが女性の顔のように見えるという人もいます。

ゆざわジオパーク

奥小安の人面岩

MAP-P54

大湯温泉の南、国道398号脇の林道を少し入ったところにあるトロッコ軌道跡の入口から皆瀬川に沿っておよそ1km。下流方向を振り返ると、川床から数メートルの高さのところの人面岩が見えます。比較的やわらかく水の侵食作用を受けやすい岩石が川の流れてけずられたもので、人の横顔に似ています。

【見つけるためのヒント】

トロッコ軌道跡は散策道としての整備が不十分で危険箇所もあります。ジオガイドに案内してもらおうとよいでしょう。

●ガイドのお申し込み・お問い合わせは、湯沢市ジオパーク推進協議会(☎0183-55-8195)へ。



この人面岩には名前がまだついていません。坊主頭の男性? それとも色白だから女性でしょうか?

ジオを楽しむ

ジオパークはふしぎがいっぱい。

- ジオのふしぎスポット p14
- ジオな伝説 p20
- ジオな温泉 p24



小安峡大噴湯(ゆざわジオパーク)

男鹿半島・大潟ジオパーク

鵜ノ崎海岸の小豆岩 MAP-P52 ①

「日本の渚100選」「日本の地質構造100選」に選ばれている鵜ノ崎海岸は、1000万年ほど前は深い海の底でした。静かに泥が積もっていた海の底は、やがて長い時間をかけて大地の力によって持ち上げられ、波によってけずられて今のような美しい遠浅の海岸になりました。小豆岩はこの海岸にある泥灰岩の塊で、地層の中で鉱物成分が集まって周囲より硬くなったこのような岩石を、地質用語でノジュールといいます。この不思議な岩の塊は、男鹿半島の大地の途方もない時間の経過を物語るタイムカプセルのようです。



(「2014あきたのジオパークフォトコンテスト」最優秀賞受賞作品)



まだ地層に埋もれていて、頭の部分だけだしたノジュール。鵜ノ崎海岸の波食台（海岸の地層が波の侵食作用でけずられ、平らになった地形）は、冬から春（2月～4月ごろ）の干潮時に全体が姿を現わします。小豆岩の観察もこのころがもっとも適しています。



経緯度交会点 MAP-P53 ②

干拓で陸地化されたことによって、北緯40度と東経140度が交わる交会点が大潟村に出現し、そのことを示す表示塔が広大な干拓地に建っています。日本の陸地で、10度単位で緯線と経線が交わっているのはこの地点だけなので、カップルの出会いの場として縁結びスポットにもなっています。

潮瀬崎 MAP-P52 ②

潮瀬崎
ジオスポットマップ

潮瀬崎といえば、なんといってもゴジラ岩。3000万年あまり前の火山噴出物でできた岩石が、長い時間をかけて塩分を含んだ潮風や波の力を受け、今の形になりました。ほかにも面白い名前がついた奇岩や生き物が這ったあとの生痕化石、津波が運んだと思われる岩など、ジオの不思議がいっぱい。ごつごつした岩場なので足もとに気をつけて、探してみましょう。

ゴジラ岩に会いに行こう!

県道

人面のように見える岩

ポットホール(罅穴)

ゴジラ岩のライバル?

生痕化石

双子岩

ゴジラのしっぽ岩

ゴジラ岩

津波が運んだ?岩

カメ岩(塩瀬崎灯台)

潮瀬崎

このニョロニョロの正体は…?

ジオの人気者「ゴジラ岩」。特に感動的なロケーションはゴジラが、まるで口から火を噴いているように見える「夕日」のとき。

ゆざわジオパーク

小安峡大噴湯 MAP-P54 ⑫



小安峡温泉街手前の遊歩道入口から皆瀬川の谷底へ下りると、断崖の地層の割れ目から白煙化した熱気が噴き出す大噴湯を、間近に見ることができます。遊歩道入口から谷底までは約60mの高低差があります。つまり、本来は地表で見られない噴湯が、皆瀬川が長い年月をかけてけずった峡谷によって姿をあらわしているのです。谷底の遊歩道を歩く私たちは、いわば地下60mの世界を体感していることとなります。

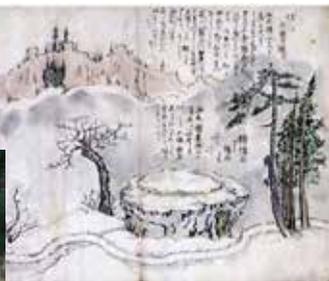


江戸時代後期の紀行家・菅江真澄がここを訪れ、迫力ある大噴湯の絵を描き残しています。絵の説明文には、「小安の河原湯。割湯（大噴湯）。吹き出る湯は、一丈（約3m）または二丈（約6m）ほどで、時には強く噴出する。音は雷鳴がとどろくようだ」（原文を意訳）とあります。



(秋田県立博物館蔵写本)

からと石 MAP-P54 ⑬



今からおよそ200年前に菅江真澄が描いたからと石（秋田県立博物館蔵写本）

国道108号の旧道に沿った中山集落の旧中山小学校跡地に、石臼のような形をした石があり、からと（唐櫃）石と呼ばれています。なぜこの名で呼ばれるようになったのか、また、大きな石の上に平べったい石がのっているのは人為か自然の造形か、それもよくわかっていない不思議な石です。周辺の地すべり地形と何か関係があるのかもしれませんが。



鞍掛神社 MAP-P8 ⑤

古くから馬頭観音をまつり、かつては馬をひいてお参りする人びとで賑わったという鞍掛神社。高松地区と稲庭地区を結ぶ県道から急な坂道を徒歩で15分ほど上った峰の頂に、社殿におおいかぶさるように凝灰岩の巨石がそびえ、その迫力に圧倒されます。



江戸時代後期にここを訪れた菅江真澄は、「岩は倭文で飾った鞍のようなので鞍掛石ともいう」と書いています。神社の名はこの岩にちなんだもので、神々しい雰囲気漂うジオのパワースポットです。

※倭文：カジノキや麻などを赤や青の色に染め、縞模様を織り出した古代の布

香川寺の弥勒大仏 MAP-P54 ⑭

院内石（詳しい説明はp37参照）とともに古くから湯沢・雄勝地方で使われてきた石材に関口石があります。日本列島のもととなる大地がユーラシア大陸から離れ、日本海が形づくられる1500万年前ころの暖かく浅い海で砂が堆積してきた岩石で、小石や泥をほとんど含まず細かい縞模様が発達しているのが特徴です。関口地区の青竜山香川寺にある弥勒大仏は、この関口石で造立された湯沢市最大の石像です。



江戸時代の中ごろに力士の依頼を受け製作したのですが、大仏を江戸まで運ぶ船がなく、現在地に安置したと伝えられています。頭、肩、胸など5つの部分を石の楔で組み合わせてできていて、手の部分では、水平な縞模様（ラミナという）が見られます。関口石はラミナに沿った加工がしやすい石なので、こうした神仏像や墓石、石碑などに用いられました。

苔沼 MAP-P54 ⑮



木地山高原の湖沼群のひとつ苔沼（秋田県指定天然記念物）は、水深5m以下の浅い沼ですが、その水面の80%は厚さ1~3mのミズゴケ泥炭でおおわれ、全体が浮島のようになっています。沼は湿地からやがて大地に変わることでしょう。

木地山高原と小安峡温泉を結ぶ県道から沼に入る道があり、案内板が立っています。ここからさらに進むと、「絶景ジオサイト」（p8）で紹介している苔沼と兜山の風景を眺めることができます。

八峰白神ジオパーク

ブラックサンドビーチ MAP-P51 ㉔



中浜海岸では、ハワイ島のブラックサンドビーチとそっくりな砂浜を見ることができます。この砂の正体は、かつて近くにあった発盛鉱業所の溶鉱炉から流れでてきたカラミ（鉱滓）です。溶鉱炉で鉱石を溶かして取り除いたドロドロの不純物（カラミ）に水をかけると、急激に冷やされて粉々に砕け散ります。これが海に流されて岸に打ち上げられ、真っ黒な砂浜になったというわけです。



ハワイ島のブラックサンドビーチは、火山から流れでた溶岩が海水にふれて黒いガラスの砂となったものです。中浜海岸の砂もガラス質なので、砂鉄のように磁石にくっつきません。



滝の間海岸のマンチャナイト MAP-P51 ㉕

「ハタハタ館」から国道101号を岩館方向に向かうと、左手の高台に日本海中部地震の津波犠牲者を慰霊した「瀧安の乙女像」が建っています。そこから下った海岸に、マンチャナイトの愛称で呼ばれている珍しい岩石があります。安山岩の溶岩でできた岩場に立ってまわりをよく見ると、白い鉱物がたくさん入っている岩石が足もとに広がっているのがわかります。これがマンチャナイトです。また、ここでは砂岩に溶岩が入り込んだ時、急に冷やされてばらばらに砕けた破片がとり込まれた岩石も見られ、ペペライトと呼んでいます。



マンチャナイトの愛称で呼ばれている岩石。白っぽい鉱物は、大きな斜長石の結晶。海岸では、波にもまれて丸くなった石ころも見られます。



マンチャナイトとペペライトが見られる海岸。

砂と溶岩が混じり合ってきたペペライト。ペペはイタリア語で黒コショウのこと。

岩館海岸の岩脈 MAP-P51 ㉖

岩館海岸にある海浜プールの北側に、ごつごつして角ばった白っぽい岩があります。この岩は厚い板が何枚も重なったような形をして、まわりの赤黒い岩を割り込むように海の方にのびています。これは地下にできたマグマが、もともとあった地層の割れ目に沿って上がってきて地表にできる前に固まったもので、岩脈といいます。



これはチゴキ崎（「絶景ジオサイト」p4参照）にある岩脈で、通称サンドイッチ岩と呼んでいます。岩館海岸を歩くと、このような大きささまざまな岩脈を発見できるでしょう。

赤黒っぽく見える岩はマグマをおおっていた地層で、手前の左右にのびている白っぽい岩が割り込んできた岩脈です。岩脈は、侵食されて今は形が残っていない火山を貫いていたマグマの通り道といえます。火山の岩体は、長い年月の間に海之力でけずられてしまい、そのため、地下でできた岩脈を海岸で見ることができるのです。

ポンポコ山の腐植土層 MAP-P51 ㉗



2層の黒土が腐植土層。

砂丘でできたポンポコ山。



公園と交流施設のあるポンポコ山一帯の砂丘には、黒い土の層（腐植土層）が2層はさまれていて、この砂丘をつくった砂あらしのないおだやかな時期が2回あったことを物語っています。海浜から風で運ばれる飛び砂がおさまると、砂丘の表面に植物が生え、植物が枯れると分解されて砂の中に土ができて、これが毎年続くと黒土の腐植土層ができあがります。砂あらしのない時期に、砂丘の上で人びとが暮らしていた跡（住居跡）も発見されています。

小野小町 伝説

ゆざわジオパーク

平安時代の六歌仙、三十六歌仙のひとりである小野小町は、情熱的な恋歌を残した美貌の歌人として伝説化され、今に伝えられています。ゆざわジオパークにも小町に関する伝承が数多く残されています。

ゆざわジオパークのジオサイトでもある小野・横堀地区には、小町にまつわる寺院や史跡が数多く点在しています。ひととき平安時代にタイムスリップして、小町伝説の郷を訪ねてみましょう。



ゆざわジオパークのキャラクター「しず小町」

ニツ森

MAP-P54 ⑬

小野小町を慕った深草少将と小町の墳墓と伝えられている2つの小高い丘。大きい方を男森(少将の墓、写真右)、小さい方を女森(小町の墓)といい、周辺は「小町の郷公園」として整備されています。



ニツ森は実際は墳墓ではなく、火山の噴出物による岩石で形づくられた丘です。男森の南側斜面(写真左)には、亀の甲のような表面をした柱状節理(右)が見られます。

岩屋堂

MAP-54 ⑭

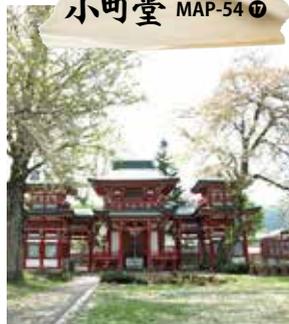


晩年の小町が世を避けて、92歳で亡くなるまで過ごしたと伝えられる洞窟。この洞窟は院内カルデラがつくられた時代の火山噴出物でできており、下のやわらかい岩が侵食されて穴があいたものです。

小町が沐浴したと伝わる滝。岩屋堂へ向かう上り口にあります。

小町堂

MAP-54 ⑮



芍薬塚(小町塚)があったところに建てられた、小町をまつお堂。毎年6月には、ここを会場に小町をしのぶ「小町まつり」が盛大に行なわれます。

立岩とオカマイ岩 伝説

八峰白神ジオパーク

岩館漁港の南の小入川海岸に立岩と呼ばれている大岩があり、次のような悲恋伝説が伝えられています。

「昔、笛が上手な若者がいて笛吹きに夢中になっていました。若者は自分に思いをよせている乙女がいることに気づきませんでした。乙女は悲しみ、海に身を投じてしまいました。それに気付いた若者は、あの世に旅立った乙女を想い毎日笛を吹き続けているうちに、とうとう立岩になってしまいました」(八峰白神ジオパーク「立岩とオカマイ岩伝説」案内板より)

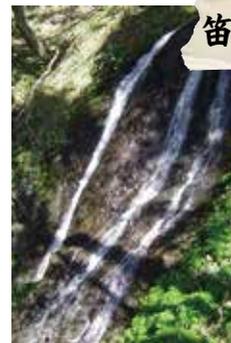
立岩

MAP-51 ⑯



笛滝

MAP-51 ⑰



立岩に姿を変えた若者が笛の練習をしたのは、笛滝という青森県境の須郷岬近くにある滝。ここで一晩中、寝ずに笛を吹いて上達を祈願すると、必ず上手に吹けるようになるといわれ、滝のかたわらに手に笛を持った不動尊がまつられています。



オカマイ岩

MAP-51 ⑱

小入川海岸では、鉄道写真愛好者の間でよく知られているJR五能線の小入川鉄橋や、明治の初めに沖合から火の玉となって飛んできたと伝えられるオカマイ岩も見ることができます。カムイ(神威)とは、アイヌ語で「神」を意味します。この岩が出現してからニシンの豊漁が続いたので、人びとは岩をオカマイ様としてまつたといわれています。



オカマイ岩。



小入川海岸。土木遺産と伝説に彩られた不思議な魅力にあふれたジオサイトです。



海側から見たオカマイ岩と小入川鉄橋。



鬼の隠れ里 MAP-52 ⑩

男鹿半島・大湯ジオパーク



なまはげの本場、男鹿半島の人びとにとって鬼は身近な存在だからでしょうか、人間の力の及ばない自然現象を鬼の仕業とした鬼伝説が、いたるところに残されています。そのひとつが寒風山の第一火口にあるピラミッドのような岩山、「鬼の隠れ里」。鬼が石を積み上げて隠れ住んだところと言い伝えられていますが、実際は噴火によってねばりけのあるマグマが地上に押し上げられ、そのまま柱のようにのびあがったものが崩れてできた、火山岩尖（スパイン）という火山地形と考えられています。

積み重なった石の中に常に水をたたえている巨石があり、「弘法大師の硯石」と呼ばれています。日照りが続いても濡れることのない不思議な石です。

999段の石段 MAP-52 ⑪



石段の石はほとんどが流紋岩です。気をつけて見ると中にメノウが入っているものがあります。雨が降るとすべりやすくなるので、上り下りの足もとには十分注意しましょう。



石段の途中にある「姿見の井戸」。のぞいた人の余命を表わすとされ、水面にはつきり映れば生命が保証されるが、映らない人は3年以内に死ぬこともあるとか……。

門前地区にある赤神社五社堂周辺は、数々の伝説で彩られているところですが、なかでも有名なのが999段の石段伝説です。昔、漢の武帝が男鹿に連れてきた鬼が、一夜のうちに1000段の石段を築くことができれば毎年村の娘を差し出すという村人たちと賭けをした。が、あと一段というところで天邪鬼が一番鶏の鳴き声をまねて夜明けを告げると、鬼たちはあきらめて山奥へ立ち去った……というのが伝説のあらすじです。



赤神社五社堂(国指定重要文化財)。鬼が築いたという999段の石段を上ったところに、五棟の社殿が並んでいます。(「2014あきたのジオパークフォトコンテスト」地域賞受賞作品)



鬼の俵ころがし MAP-52 ⑫

入道崎の少し南の崖の下に、うすいピンク色をした花崗岩の地表が見えます。そのなかを茶色の岩が一本道のようにのびています。鬼が俵をころがしたように見えるので、「鬼の俵ころがし」と呼んでいるのですが、その正体はというと……そうです、「ジオのふしぎスポット」(p19)でも紹介している岩脈です。

花崗岩は、日本列島がユーラシア大陸の一部であったころ、地下の深いところでマグマがゆっくり冷えてかたまつたものです。その上に重なっている黒っぽい岩石が、およそ7000万年前の噴火でできた男鹿半島をつくるもっとも古い地層です。そのなかをずっと後から入り込んだ岩脈が貫いているというわけです。



縞石の伝説

男鹿半島の北西部にある西黒沢地区の海岸には、流れるような縞模様が美しい縞石という石があり、次のようないわれが伝えられています。「弘法大師が男鹿に修行に来たとき、西黒沢の民家に立ち寄って夕飯をお願いした。ところが、その家の婆さんは、鍋に煮ているイモを石ころだと言って断った。そしたら鍋のイモがみんな石ころに変わってしまった。それから西黒沢の海辺には、珍しい縞のある小石が見られるようになった」(『男鹿市史 上巻』より)

お婆さんにいじわるされた弘法大師がイモから変えたという縞石。流紋岩やデイサイトという岩石が波でもまれて丸くなったものと考えられています。

※デイサイト——火山岩(マグマが急激に冷えてかたまってきた岩石)の一種。以前は石英安山岩と呼ばれていました。



西黒沢海岸の岩場では、日本海ができたころの浅く暖かい海で生息していた生物の化石を見つけることができます。童心にかえて、化石探しに挑戦してみましょう。



ウニの仲間スカシカシパンの化石

ゆざわジオパーク



川原の湯っこ MAP-P54 ㉔

秋の宮温泉郷を流れる役内川の川原からは、ところどころから温泉が湧き出て「川原の湯っこ」と呼ばれています。川底を掘ったり川底の石を寄せたりして湯船をつくると、自分だけの足湯が完成。川原の石に腰掛けて、ジオな温泉気分がひたることが出来ます。



「マイ足湯」を掘るためのスコップやクワも用意されています

小安峡温泉の足湯 MAP-P54 ㉕

小安峡温泉には2つの共同浴場のほか、国道398号沿いに6カ所の足湯があります。すべて屋根つきで、もちろん無料。不動滝（「絶景ジオサイト」p9参照）や大噴湯（「ジオのふしぎスポット」p16参照）を散策した後のひと休みに最適です。

産直施設・あぐり館の横にある足湯・アグリの湯



足湯や宿泊・入浴のお問い合わせ ☎0183-47-5080 小安峡温泉総合案内所

男鹿半島・大潟ジオパーク

男鹿温泉郷 MAP-P52 ㉖



「鬼の隠れ道」

「男鹿ホテル」の浴室。温泉の成分が析出して、見事な石灰の柱を形づくっています



男鹿温泉の泉質はカルシウム成分を含むナトリウム塩化物泉。8軒ある宿泊施設は、いずれも日帰り入浴を受け入れています。温泉郷一帯は、明治から大正時代にかけて石灰岩を露天掘りしていた場所で、現在も「鬼の隠れ道」と呼ばれている石灰華の崖を見ることができます。

宿泊・入浴のお問い合わせ ☎0185-33-3191 男鹿温泉交流会館「五風」

大潟モール温泉 MAP-P53 ㉗

「モール (Moor)」は、ドイツ語で「腐植質」のこと。モール温泉は、地下で堆積した植物起源の有機物を多く含む泉質のことで、琥珀色をした全国でも珍しい温泉です。干拓地の地下約900mから湧き出る太古の湯は、まさに大地の贈り物。日帰り入浴は、村営の「ポルダール湯」と隣接した「ホテルサンルーラル大潟」を利用できます。



「ポルダール湯」の浴場

ポルダール湯

大潟村北1-3
☎0185-45-2641
営業時間 6:00~22:00
定休日 毎月第2火曜日
入浴料 大人400円、中学生200円
小学生150円

ホテルサンルーラル大潟

大潟村北1-3
☎0185-45-3332
日帰り入浴時間 11:30~18:00
入浴料 大人500円
※ 第1、3月曜日は清掃のため利用できません

ジオを歩く

ジオトレッキングに出かけよう。

- 川原毛地獄 (ゆざわジオパーク) p26
- 寒風山 (男鹿半島・大潟ジオパーク) p28
- 留山 (八峰白神ジオパーク) p30
- 三十釜 (八峰白神ジオパーク) p32



寒風山 (男鹿半島・大潟ジオパーク)

1 川原毛地獄入口
(泥湯温泉側)



秋の宮温泉郷と小安峡温泉を結ぶ県道310号の泥湯温泉側に駐車場があります。川原毛地獄へは、ジオサイト案内板の脇から遊歩道を谷の方(左)へ下っていきます。

2 賽の河原



噴出する火山性ガスの漂白作用によって、山肌が白く変色しています。硫化水素を含むガスは有毒で、時には命を落とす危険もあるため、数年前から遊歩道への立ち入りが禁止されています。写真は県道側から望んだものです。

4 浄土長根



多数の石仏や硫黄鉱山で亡くなった人の慰霊碑などが並ぶ川原毛地獄山の霊地。慈覚大師(円仁・794年~864年)が奉獻したと伝わる法羅陀地蔵は、頭の部分が欠けた胴体だけの座像で、「浄土長根の極楽地蔵さん」とあがめられ、信仰をあつめてきました。

ゆぎわジオパーク

かわらげ
川原毛地獄

MAP-P54 ㊦

草木も生えない荒涼とした山肌から硫黄や水蒸気が噴き出し、まさに地獄のような光景が広がる川原毛地獄。そこを下ると、滝がそのまま天然温泉になっている川原毛大湯滝があります。

ここでは、泥湯温泉側から川原毛地獄に入り、遊歩道を下って大湯滝へいたる「地獄と天国」を一度に味わえるルートを紹介しつゝ、見学や入浴も含めると、所要約2時間30分の往復となります。ジオの中級者向けトレッキングルートです。

3 中ノ沢



中ノ沢は現在でももっとも噴気活動が盛んなところで、噴出口には美しい硫黄結晶もみられます。この付近は風向きや気圧の変化で有毒ガスが滞留するので注意が必要です。遊歩道以外の場所には絶対に入らないようにしましょう。



5 内沢



川原毛地獄山は別名川原毛硫黄山ともいい、江戸時代の初めから1966年(昭和41年)まで断続的に硫黄の採掘が行なわれていました。1964年(昭和39年)4月にここで山崩れが起こり、鉱山従業員4名が崩れた土砂に埋もれて亡くなりました。

6 八幡地獄



山神社の背後に岩が露出した崖があり、八幡地獄と呼ばれています。岩の表面のところどころに、地獄で苦しむ人の顔が見えるといわれています。

ジオトレッキング
川原毛地獄ルート

ジオトレッキングルート
車道
立ち入り禁止



7 川原毛大湯滝の源泉地



山神社のすぐ下に小さな滝があり、その下流の川岸から熱湯が湧出しています。湧出口ではおよそ95度の高温で、pH1.4というまれにみる強酸性の温泉です。源泉地一帯は立ち入りが禁止されています。

8 湯尻沢



10 川原毛大湯滝



滝は2つに分かれて落ち、落差およそ20m。左の滝つぼは広さ、深さ、水量ともほどよい天然の湯船です。まさに地獄を見てから天国へといったところですが、入浴したあとに再び川原毛地獄へ戻るので、ここで油断してはいけません。ずっと上りの帰り道で本当の地獄を見ることになるかも……?

9 川原毛温泉跡への分岐点



遊歩道をまっすぐ進むと、昭和時代の初めころまで温泉宿があった川原毛温泉跡へいられます。大湯滝へは、右の九曲と呼ぶ坂道を下っていきます。

川床が温泉成分でエメラルドグリーンになっています。下流の農作物に悪影響を及ぼすこの温泉は毒水と呼ばれ、農民たちが苦しめられた歴史があります。

★大湯滝の入浴に適した時期は7月上旬から9月中旬ころまで。入浴の際には水着を着用する必要があります。脱衣所は夏季のみ設置。
★泥湯温泉側からの往復コースではなく、三途川側から市道湯尻沢線を經由して川原毛地蔵菩薩前駐車場にいたり、そこを起点に川原毛地獄と大湯滝をそれぞれ往復してもよいでしょう。
★冬期間(11月中旬~翌年5月ごろ)は、駐車場まで直通する道路が県道、市道とも閉鎖となります。

1 いたば 板場の台



直径約700mもある第一火口を見渡すのには絶好の場所。正面に見えるのは、山頂(左)とこれから向かう蛇越長根(右)です。火口の表面の波打つような地形と土手のような地形は、溶岩が流れた跡で、溶岩の先端や脇の部分が早くかたまっただけにできた段差です。

2 鬼の隠れ里



詳しくは(「ジオな伝説」p22参照)

3 たたみ 畳岩



寝転んで空を仰ぎたくなる平らな大岩。寒風山を形づくる安山岩溶岩でできています。

4 蛇越長根分岐点



歩行距離を短縮したい人は、姫ヶ岳へ向かずサブルート第二火口へ下る道を選ぶこともできます。

5 蛇越長根と姫ヶ岳



分岐点から姫ヶ岳まで尾根(蛇越長根)がのびています。途中、登山道には大蛇が通った跡だといえられている岩がゴロゴロし、時期によってはヤブもあるので歩行には注意が必要です。

春/フデリンドウ



春/アズマギク



夏/ヤマユリ



夏/オガワフロ



6 蛇越長根から望む第二火口と妻恋峠火口



7 石川理紀之助歌碑 (姫ヶ岳山頂)



8 第二火口の風穴



秋/オミナエシ



秋/センブリ



男鹿半島・大潟ジオパーク

かんぶらざん

寒風山 MAP-P52 ⑩

寒風山は2万年あまり前から、数回にわたる噴火活動を繰り返して形づくられた火山です。車で手軽に登れるイメージのある山ですが、歩いてぐるりとまわれば、「火山の箱庭」と呼ばれる寒風山のさまざまな火山地形を間近に観察することができ、本格的なジオトレッキングが楽しめます。

いくつかトレッキングルートが設定されていますが、ここでは板場の台を出発点に、鬼の隠れ里—蛇越長根—姫ヶ岳—妻恋峠駐車場にいたる1周約5.5km、所要約2時間のジオの上級者向けルートを紹介しましょう。



★ルート上に急坂や岩場があるので、靴は厚底のトレッキングシューズが適しています。
★紹介したルートの逆回りも可。車が2台ある場合は、板場の台と妻恋峠駐車場にそれぞれ車を置いて移動すれば、歩行時間を短縮できます。
★歩く前に、寒風山の地形を把握するため山頂から第一火口・第二火口を眺め(p6の写真参照)、トレッキングルートを確かめてみることをおすすめします。

ミズナラの巨木の下で何かを探しています。

トトロの好物、ドングリ発見!



きれいなブナ林

ブナの枯れ木に群生しているのは、ツリガネタケというキノコの種類。



散策路の中ほどにあるちょっとした坂道を上ると留山の頂上(180m)。



留山の主のような、樹齢300年のブナの巨木。



木の真下から見上げると、天空をおおうように四方八方に枝がのびています。まるで自然がつくったアート作品のようです。



フジのアーチをくぐると、ブナの森の散策もそろそろ終わりです。



水たまりのような小沼。ここにはクロサンショウウオが棲んでいるそうです。



フジがからみついて奇妙な形をしたミズナラの木。



メタボ?の奇形ブナ。

ブナ、ミズナラ、トチなどの落葉樹の森なので、晩秋の晴れの日には、葉が落ちた森全体が陽光に包まれて明るく輝き、新緑や盛夏のころとはまた違った趣があります。



クマのツメ跡がついたブナ。木から下りるときにつけたものです。



散策路にはクマの好物のブナの実がたくさん落ちています。

至白瀬神社



出口

案内板



入口

案内板

至国道101号

八峰白神ジオパーク

とめやま

留山 MAP-P51 ㊦

樹木の伐採を「留た」山に由来するといわれる留山は、標高160m~180mの里山ですが、ブナを中心とした広葉樹の天然林が残っている全国でも珍しい場所です。全長850mの散策路が整備され、誰でも気軽にトレッキングを楽しむことができるのも魅力です。

水源確保のため藩政時代から地域の人びとが守り継いできた森なので、入山の際は荒廃を防ぐためガイドの同伴が必要となっています。

★スニーカーでも大丈夫ですが、雨降りのあとなどで足元がぬかるんでいる場合は、トレッキングシューズや長靴がよいでしょう。
★水の目林道は未舗装で道幅が狭く、大型車は通行できません。
★ガイドは事前予約(1週間前まで、有料)が必要。お申し込み・お問い合わせは、「白神ふれあい館」☎0185-70-4211まで。

ジオトレッキングルート
車道

留山を
トレッキング
しよう!



森に入る前に案内板の前でガイドさんからコースの説明を受けます。標高差がほとんどないので、ゆっくりめぐっても1時間ほどで1周できます。

※地図は「留山を知ろう!」(あきた白神体験センター発行)を参考に作成しました

◆三十釜の由来

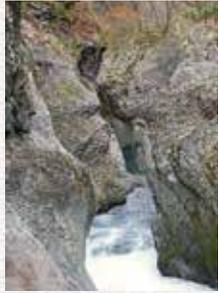
諸説がありますが、その昔、薪まきに使う雑木ぞうきを川に流して運んでいたとき、滝つぼにたくさんたぐさの雑木が沈んだのを見て「三十釜さんじゅうがま分も沈んだ」と言ったから、といわれています。「釜」は昔の薪の単位で、1釜=5尺×5尺×3尺。1尺=30.3cmなので、三十釜となれば大変な薪の量になります。

八峰白神ジオパーク

さんじゅうがま
三十釜 MAP-P51 ⑫

白神山地を源とする真瀬川まのせがわにある三十釜は、安山岩あんざんがんと角礫凝灰岩かくれきぎょうかいがんが急流によって侵食されてできた淵と滝つぼが連続していて、変化に富んだ渓谷美を楽しめる所です。渓谷に沿って全長約1.5kmの遊歩道が整備されています。ゆっくり歩いて45分ほどでまわることができる、ジオの初級者向け散策コースです。

隣接した八森ぶなっこだんには、白神山地のトレッキングや八峰白神ジオパーク見学の手助けとなる関連施設があります。



白神山地の地形模型や資料を展示しています。
☎0185-77-3086
開館時間 9:00~17:00
休館日 水曜日
入館料 無料

白神ふれあい館
白神山地や八峰白神ジオパークを案内するガイドを紹介してくれます。
☎0185-70-4211
(水曜日休業)

白神山地のインフォメーションセンター。
☎0185-77-3086 (水曜日休業)

ジオトレッキングルート
車道

おらほの ジオサイト

ガイドのイチ押しジオサイト。

- 椿海岸 (八峰白神ジオパーク) p34
- 院内 (ゆざわジオパーク) p36
- 館山崎 (男鹿半島・大瀧ジオパーク) p38
- 大瀧富士 (男鹿半島・大瀧ジオパーク) p40



菜の花ロードと桜並木 (男鹿半島・大瀧ジオパーク)

八峰白神ジオパーク

椿海岸

MAP-P51 13 14 15 16

八峰町白神ガイドの会
木村 清子さん



太古の時代に
海の底で生まれた
石の柱の群れ。
見て触れて
ジオを体感！

八峰白神ジオパークには見どころがたくさんありますが、私がおすすめするジオサイトは、何といても椿海岸の柱状節理。椿漁港の北側に突きでている岩場では、断面が四角形、五角形、六角形をした石の柱が集まって大きな岩の塊をつくっています。およそ500万年前、海底火山の溶岩流がかたまってできたもので、このような割れ方をした岩石の様子を柱状節理といいます。石の柱の上に立って、はるか昔に海のなかで起こった火山噴火を想像してみませんか。

五能線の八森駅から椿海岸まで、フットパス（てくてく歩き）でめぐってみるのも楽しいですよ。カラミ石でできた民家の塀を見たあとは、黒い砂浜（ブラックサンドビーチ）が広がる中浜海岸を歩いてみましょう。ここから眺める日本海に沈む夕日は、荘厳の一語。デートスポットとしてもオススメです。

私もみなさんといっしょになってジオを楽しみながら、ジオの不思議さ、面白さをお伝えできればと思います。ぜひ、八峰白神ジオパークにいらしてください。



椿海岸の柱状節理

節理をひとことていうと、「岩石に表われる規則正しい割れ目」のこと。地上（水中）にできたマグマが冷えてかたまる時に体積が縮まってできます。椿海岸のさまざまな形をした石の柱の集まりは、素波里安山岩体と呼ばれている安山岩からできていて、「椿海岸柱状節理群」として、八峰町の天然記念物に指定されています。

柱状節理の岩場を歩くときは、すべったり転んだりしないよう気をつけてね！

町に活気をもたらした鉱業所の歴史は、説明板で詳しく知ることができますよ。



ブラックサンドビーチ

ここ中浜海岸の黒い砂浜は、かつてこの近くにあった発盛鉱業所で生じたカラミが堆積したもの。詳しくは「ジオのふしぎスポット」(p18)を参照。

中央公園

中浜地区には、1990年(平成2年)に解体された発盛鉱業所の「六角煙突」をモチーフにしたモニュメントが建っています。



カラミ石の塀

発盛鉱業所で製錬した鉱石の残滓(残りカス)を固めたカラミ石は、民家の塀や土台などに利用されました。今も、八森駅周辺で見ることができます。

ガイドのお申し込み・お問い合わせ = ☎0185-70-4211 (白神ふれあい館)

ガイドのおすすめジオ食

はちもり観光市



八森沖でとれた新鮮な魚介類を始め、野菜や山菜、町の特産品を販売。名物のホッケのつみれ汁(1杯200円)のほか、みそつけたんぼ、うどんやそばが食べられる食堂もあります。

ブラックサンドビーチカレー



レストラン 白神森海

八峰白神ジオパークの日本ジオパーク認定を祝って登場したカレー(550円)。バーナーで表面を軽くあぶって雄島に見立てたライスに、黒い砂浜をイメージしたカレーがよく合います。

住所 八峰町八森横間156 営業時間 9:00~17:00
営業日 土曜日・日曜日のみ営業 電話 ☎0185-77-3774

住所 八峰町八森中浜1-13 営業時間 11:00~15:00
定休日 なし 電話 ☎0185-77-3073

ゆざわジオパーク

院内

MAP-P54 20②

歴史遺産に彩られた
県境の町は、
ジオの魅力もいっぱい。



ゆざわジオパークガイドの会
鈴木 清子さん
せいこ

院内で生まれ育った私がおすすめるジオサイトは、もちろん院内。羽州街道と院内銀山で栄えた歴史をしのばせる町並みと、ゆざわジオパークのテーマである「いにしへの火山の恵み」がもたらした大地の風景が、大好きです。

なかでもぜひ訪ねてほしいイチ押しの場所が、石を切り出した山肌がそのまま残る院内石（院内凝灰岩）の採石場跡。ここから山々に囲まれた小さな盆地状の院内の地形を望むことができます。この地形は大規模な火

山活動によってできた凹地で、院内カルデラと呼ばれています。採石場跡と院内カルデラは、ゆざわジオパークが誇るジオの景観だと思います。

院内駅（院内銀山異人館）を起点に、町を歩いてみるのもいいですよ。今でも石蔵、民家の石塀や土台など、院内石が身近な建物に使われている様子を見ることができます。時間が許せば、車で数分の院内銀山跡もぜひ訪ねてみてください。みなさんのおいでをお待ちしています。



立ち入り禁止の場所には
入らないようにしましょう。



院内石採石場跡

院内石は火山活動で噴出した軽石を多く含む灰白色の凝灰岩。風化作用や熱に強く加工しやすいため、古くから石材として利用され、1998年（平成10年）ころまで採石されていました。



旧院内小学校

1906年（明治39年）建築のロマネスク様式の校舎は、現在は院内地区センター（☎0183-52-2498）となっていて、内部の見学もできます。



カラムニ
鉱石を製錬するときに
出た不純物

旧院内小学校校庭の土台

院内石（上の部分）と院内銀山のカラムニ石（下の部分）でつくられています。



旧院内町役場倉庫

1923年（大正12年）に院内石を使って建てられた倉庫です。

石碑を見て
なんか変？
と思いませんか。



旧羽州街道の「申庚塔」

ほっと館

市営の日帰り温泉施設。
営業時間 5:00～22:00
入浴料 大人410円 小学生200円
定休日 なし
電話 ☎0183-52-2101



そうです。
正しくは申庚塔。
石に文字を刻んだ
職人さんが、
あわてんぼうだった
のがもれませんか。

ガイドのお申し込み・お問い合わせ = ☎0183-55-8195（湯沢市ジオパーク推進協議会事務局）



久米食堂

ラーメン（500円）は1927年（昭和2年）の創業当時から変わらぬ味。中国から来たお嫁さんがつくった本場の焼き餃子（1皿450円）もおいしい。

住 所 湯沢市上院内小沢95
営業時間 11:30～14:00 17:00～20:00
定休日 月曜日
電話 ☎0183-52-2444



竹野屋

1923年（大正12年）創業の和菓子店。カリカリの皮がくせになる「かりんとう饅頭」（1個95円）が人気です。

住 所 湯沢市下院内常盤町3
営業時間 7:00～19:00
定休日 なし
電話 ☎0183-52-2234

男鹿半島・大潟ジオパーク

館山崎

MAP-P52 13 14

男鹿半島・大潟
ジオパークガイドの会
わたなべ
渡邊 由紀子さん



目を見張るほど
鮮やかな緑色の岩肌。
雨の日の観察も
おすすめ!

男鹿半島・大潟ジオパークで私が一番好きなジオサイトは、館山崎。岬一帯では、火山灰や火山礫（火山噴火で生じた岩石のかげら）が積み重なってできた凝灰岩の地層を見ることができます。そのうち熱水などで変質して緑色になったものをグリーンタフといって、ここがその名称の発祥の地といわれています。

ガイドになる前に初めてこの場所に来たとき、海岸に落ちているグリーンタフの小石を海水に浸してみたら、より深みを増した緑色になったことに新鮮な驚きを感じました。館山

崎のグリーンタフは、水に濡れるとターコイズ（トルコ石）ブルーのような輝きを放つので、ここは雨の日でも楽しめる貴重なジオサイトです。

館山崎のある椿地区には、ほかにも「椿の白岩」「金崎」「能登山」などの見どころがあるので、歩いてまわるのもいいですね。ジオパークを知ると、ふだん何気なく見ていた風景も見る目が変わります。私たちガイドは、そのためのお手伝いができれば、と思っています。

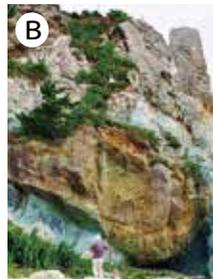
能登山のツバキ
ツバキ自生北限地帯として国の天然記念物に指定されているヤブツバキ群落。毎年春になると、小さな岩山が紅色で染まります。

金崎
火山礫凝灰岩の断崖が続くこの岬を境に、東側（男鹿駅寄り）は海の底で積み重なった地層となるので、おだやかな海岸風景になります。

御前落とし
戦国時代、館山崎にあった双六館が敵に攻められ落城した際、城主の奥方が海へ身を投げたと伝えられている断崖。



見学するときは、落石に注意！
露頭にあまり近づかないようにしてね。



館山崎のグリーンタフ
駐車場から見たグリーンタフの崖(写真A)。その反対側にまわると、巨大な岩の塊が埋め込まれた露頭(岩石や地層が地表に露出して観察できる場所)が現れます(写真B)。



「べご」は
男鹿の方言で牛のこと。
真っ黒なべごに
見えるかな？



牛岩



ろうそく岩



椿の白岩
塩分を含んだ潮風などでけずられて、表面がアイスクリームをスプーンですくったようにへこんでいる白い凝灰岩。江戸時代の紀行家・菅江真澄は「舞茸の岩」と呼びました。

館山崎などのジオサイトは、「男鹿半島・大潟ジオパークガイドの会」の認定ガイドが案内します。案内は有料となっています。



私たちが
ご案内します!

ガイドのお申し込み・お問い合わせ = ☎0185-24-9104 (男鹿半島・大潟ジオパーク推進協議会事務局)

ガイドのおすすめジオ食



ふうか 風花

魚介、野菜、山菜を中心とする地元食材を使った手作り家庭料理の食事処。完全予約制で1日1組(3名以上)限定。料理は2500円~のおまかせです。



カフェランド椿

さをり織りのアトリエ兼用のカフェ。目の前に広がる男鹿の海を眺めながら、松花堂弁当(800円・コーヒーつき)、麺類などの食事でもできます。

住 所 男鹿市船川港椿字東12-1
営業時間 11:30~15:30 17:00~21:00
定休日 なし 電話 ☎0185-27-2088

住 所 男鹿市船川港椿字中山15-7
営業時間 11:00~16:00
営業日 火曜日・金曜日のみ営業 ※冬期間(12月下旬~3月中旬)休業
電 話 ☎0185-27-3739

男鹿半島・大潟ジオパーク

大潟富士

MAP-P53 ②

頂上から干拓地を一望。
「日本一低い山」に
登ってみませんか。



大潟村案内ボランティアの会
石原 敏子さん

大潟村は日本で唯一の、干拓地に新たに誕生した村です。1970年(昭和45年)に第4次入植者として長野県から入植した私が、この村の大地の歴史を知っていただくために、みなさんをご案内したいジオサイトがこの大潟富士です。

大潟富士は、1995年(平成7年)に盛り土をして造られた人工の山です。高さは地面から3.776m、富士山の標高3776mの1000分の1にあたります。山頂はかつての八郎潟の湖面で、ちょうど海拔0mになります。つまり、「日本一

低い山」なんです。八郎潟を干拓してできた大潟村の土地は海面よりも低いことが、これでわかりますね。

頂上からは、湖の底にできた村を見渡すことができます。ぜひ登って干拓地の広さを実感してみてください。



大潟富士

八郎潟干拓記念水位塔

モニュメントの赤い球体を貫く横棒は、すぐそばの大潟富士と同じ高さで、かつての湖面を示しています。



大潟富士の前を通る菜の花ロードの桜は、私たち入植者が村立20周年を記念して植樹したものです。

菜の花ロードと桜並木

大潟村では、防風や景観などの理由からさまざまな樹木が植えられてきました。ソメイヨシノ、ヤエザクラ、ヤマザクラなどおよそ2700本の桜並木は、菜の花とともに、大潟村の春の風物詩となっています。



ガイドのお申し込み・お問い合わせ = ☎0185-22-4113 (大潟村干拓博物館)

ジオを学び ジオを味わう

- 大地の歴史を学ぼう p42
- ジオの恵み 湧水めぐり p46
- ジオの恵みを食べよう p48



院内銀山異人館

MAP-P54 ㉔

ゆざわジオパーク



院内銀山の歴史を今に伝える郷土資料館です。明治時代初めに鉱山開発の近代化を図るため招いたドイツ人技師の住居（異人館）に似せて、JR奥羽本線院内駅の駅舎と合わせて建てられました。

- 所在地 湯沢市上院内小沢115
- 問い合わせ ☎0183-52-5143
- 開館時間 9:00～16:30
- 入館料 大人320円(200円)
中学生以下210円(150円)
※かつこ内は20名以上の団体料金
- 休館日 毎週月曜日

各種資料やジオラマで院内銀山の歴史を知ることができます。

院内銀山跡 MAP-P54 ㉕

院内銀山は江戸時代の初めころに発見され、閉山までおよそ350年続いた国内有数の銀山でした。江戸時代後期の天保年間には日本一の銀産出量を誇り、人口1万人を超える銀山町として秋田藩の城下町久保田（現在の秋田市中心部）をしのぐほどの賑わいをみせたといわれています。現在も銀山跡地には、鉱山墓地、坑口跡、金山神社などが残り、かつての繁栄がしのべれます。

共葬墓地



院内銀山で亡くなった人びとは銀山の寺やこの共葬墓地に葬られました。約500基の墓石があります。

御幸坑



1881年(明治14年)の明治天皇の巡行の際に見学された坑道。もとは五番坑と呼ばれ、数ある坑道の中で唯一の坑夫の出入り口でした。

金山神社



院内銀山の発見とともに創建された鎮守社で、現在の社殿は1830年(文政13年)に建てられたものです。近年、傷みが激しかった拝殿や楼門(山門)の修復工事が完了し、鳥居も建て替えられました。

湯沢市郷土学習資料展示施設

MAP-P54 ㉖

高松地区センター(旧高松小学校)の2階に、湯沢市郷土学習資料展示施設があります。

ゆざわの大地の歴史を解説した展示コーナーのほか、「押切伸三 三途川化石資料室」と「埋蔵文化財資料室」があり、ゆざわジオパークを学び知るための拠点施設となっています。

- 所在地 湯沢市高松字上地6-2
- お問い合わせ ☎0183-79-3370
(高松地区センター)
- 開館時間 9:30～16:30
- 入館料 無料
- 休館日 年末年始を除き無休



押切伸三 三途川化石資料室

ゆざわジオパークの代表的な地層である三途川層から採取された植物化石や昆虫化石などの標本が展示されています。そのほとんどは、湯沢市の高校で地学の教諭をするかたわら、40年以上にわたって化石を収集・研究してきた押切伸さんから寄贈されたものです。



三途川周辺では、およそ700万年前の火山活動でカルデラができ、そこに水がたまって湖(カルデラ湖)となりました。その湖の底で砂や泥、火山灰などが長い年月をかけて堆積したのが三途川層と呼ばれる地層です。植物化石はこの地層から発見され、多くは細かい葉脈まで観察することができます。



昆虫化石。このように色や細かい部分の構造までしっかりと残った保存状態のよいものは、全国でも珍しいとされています。



ゆざわの大地の歴史を学ぶコーナー

大地を形づくっている地層、岩石などをパネルや標本で展示。岩石は手でさわったり、たたいたりして硬さや重さを確かめることができます。



埋蔵文化財資料室

湯沢市内の遺跡から発掘された土器や石器などの出土品を保存・展示しています。

大潟村干拓博物館

MAP-P53 24

男鹿半島・大潟ジオパーク



干拓地に誕生した日本で唯一の村・大潟村。その歴史を知ることができる博物館です。八郎潟のおい立ち、干拓事業、大潟村の農業、環境などをテーマごとに紹介した常設展示のほか、年間を通してさまざまな企画展示や自然観察会を実施しています。

- 所在地 大潟村字西5-2
- お問い合わせ ☎0185-22-4113
- 開館時間 9:00~16:30
- 入館料 一般・大学生300円(250円)
小中学生・高校生100円(50円)
※かつこ内は15名以上の団体料金
- 休館日 毎月第2・第4火曜日
(10月~3月は毎週火曜日、祝日の場合はその翌日)

約1万年の時間をかけて誕生した汽水湖、八郎潟を図解パネルで解説しています。



平成25年2月に「八郎潟のおい立ち」のコーナーが新たに設けられました。大潟村の地層の剥ぎ取り標本(左の写真)、採集された貝類の化石など、ジオの魅力あふれる展示内容となっています。

干拓博物館と大潟村の案内

博物館内や村内のジオサイトを「大潟村案内ボランティアの会」のメンバーが案内します(無料)。1週間前まで博物館にお申し込みください。



地層を観察できる露頭がない大潟村の、地面の下に隠れて見ることのできない大地の断面を、ここで間近に観察することができます。



「大地とのたたかい」のコーナー。大潟村の大地は、かつての八郎潟の湖底であり、粘土を多く含むとても柔らかい土壌でした。入植したばかりの頃は、土壌がまだ乾いておらず、大きなトラクターが埋まってしまい(この状態を「カメになる」と言った)、入植者は大変苦労しました。

大潟草原野鳥観察舎 MAP-P53 26

大潟村干拓博物館の南西側に広がる草原は、1977年(昭和52年)に日本で最初の国設保護区である「国指定大潟草原鳥獣保護区」として指定されました。保護区内には大潟草原野鳥観察舎が設けられ、誰でも気軽に野鳥の観察をすることができます。



野鳥観察舎内に展示してあるノスリの剥製

- 所在地 大潟村西5-4
- お問い合わせ ☎018-867-8588
(環境省 秋田自然保護官事務所)
- 開館時間 9:00~15:00
- 入館料 無料
- 開館日 土曜日、日曜日、祝日(平日は中に入れません)
※冬期間(1月~3月)は閉館

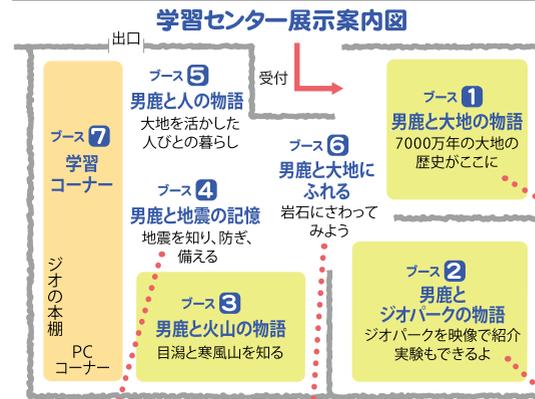
男鹿市ジオパーク学習センター

MAP-P53 19

男鹿半島の大地の成り立ちを、子どもから大人まで楽しみながら学べる展示学習施設。男鹿市役所若美庁舎2階にあります。解説員がわかりやすく説明してくれるので、ここで予習してからジオサイトに出かけましょう。

- 所在地 男鹿市角間崎字家ノ下452
男鹿市役所若美庁舎2階
- お問い合わせ ☎0185-46-4110
- 開館時間 9:00~16:00
- 入館料 無料
- 休館日 毎週月曜日
(祝日の場合はその翌日)

ジオパーク学習センターでは、各団体の見学やジオパークを五感で学ぶ体験学習を受け付けています。学校教育、生涯学習などに適していますので、ご希望の団体の方は、事前にお申し込みください。



八峰白神ジオパーク

お殿水 MAP-P51 ㉔

お殿さまも絶賛! 白神の湧き水



江戸時代の参勤交代で、弘前藩第2代藩主・津軽信牧公が津軽から八森道を通り、人家のないこの地に駕籠を止め休憩しました。その際、街道脇の清水を飲んだところ、あまりのおいしさに「甘露、甘露」とほめたたえたのが、名前の由来と伝えられています。道の駅・はちもりの敷地内にあるため、道行く多くのドライバーに親しまれています。

硬度50.8mg/ℓ
pH値8.1
水温10.1℃
水量6.7ℓ/分

八峰町で唯一の酒蔵、「白瀑酒造」(山本合名会社)では、酒銘の由来となった白瀑の上流から湧きでる水を直接酒蔵まで3kmの自家水道で引き込み、酒造りのための仕込みをしています。良質な湧き水が、お酒の味を支えているのです。



白瀑



白瀑酒造

八峰町八森字八森269
☎0185-77-2311
酒蔵見学には事前予約が必要です。

「白瀑」純米酒

男鹿半島・大湯ジオパーク

滝の頭湧水 MAP-P52 ㉕

ほとばしる湧水は、地域をうるおす命の水



溶岩などの火山噴出物にはたくさん割れ目や気泡があり、降った雨はそのすき間にしみこんで水がたまります。溶岩が積み重なってできている寒風山は天然の水がめとってよく、山麓には多くの湧水が分布しています。そのなかでもっとも水量豊富で規模が大きいのが滝の頭湧水です。ミネラルが豊富で口当たりもやわらかな水は、男鹿市の大切な水源となっています。

硬度51mg/ℓ
pH値7.0
水温11℃
水量 約25,000 t/日

滝の頭のある鮎川自治会では、湧水が流れ込む場所でクレソンを栽培し、地域の特産品づくりに取り組んでいます。この「滝の頭クレソン」を使ったのが「グルメストアフクシマ」のクレソンコロッケ。香りや苦味などの風味がしっかりした、大人の味のコロッケです。



滝の頭クレソン



グルメストアフクシマ

男鹿市船川港船川180-1
☎0185-23-2624
営業時間 9:00~18:30
(土・祝日は18:00まで)
定休日 日曜日

ゆざわジオパーク

力水 MAP-P54 ㉖

ゆざわの誰もが知っているっ!



硬度37.8mg/ℓ
pH値7.4
水温12.5℃
水量11ℓ/分

湯沢市街地の中心部にある湯沢城址のふもと、湯沢市役所すぐそばにあり、「飲むと力が湧く水」として古くから市民に親しまれてきた名水です。環境庁(現環境省)が選定した「日本名水百選」のひとつに選ばれています。

湯沢市は湧き水が豊富なところで、「力水」のほかに、市内の各所に名前がついているだけでも30か所以上の湧水地があります。このうち代表的な4か所を紹介しておきましょう。



くぞわたの清水 MAP-P54 ㉗

山の斜面を勢いよく流れ落ちてくる水量豊富な湧水。一年を通じて枯れることがなく、「健康長寿の霊水」と呼ばれています。



目覚めの清水 MAP-P54 ㉘

役内川にかかる川井橋のたもとにあります。古くから街道を往来する人びとの「力添えの水」として親しまれてきました。



栗駒神水 MAP-P54 ㉙

宮城県境5km手前の国道398号脇に湧出しています。水温約7℃と冷たく、ほのかな甘味があります。



愛宕鉱泉 MAP-P54 ㉚

pH9.8の強アルカリ性で炭酸水素イオンを多く含み、少し硫黄の匂いのする珍しい湧水です。ただし、鉱泉水なので、湧出したものをそのまま飲むには適していません。



パノ
湯沢市山田字松の木74-54
☎0183-72-2468
営業時間 11:00~17:00
定休日 月曜日・木曜日

パンづくりにこの「力水」を用いているのが、湯沢市の自然酵母のパン屋さん「パノ(Pano)」。かみしめたあとに、自然のおいしさが口いっぱい広がります。

おいしい水の要件として、硬度、蒸発残留物、遊離炭酸、水温、pH値、水温などがあります。このうち硬度は、水1000mℓ中に溶けているカルシウムとマグネシウムの含有量を示し、WHO(世界保健機関)の基準では硬度が120mg/ℓ以下を「軟水」、120mg/ℓ以上を「硬水」としています。また、水のアルカリ性を示すpH値は7が中性、それより低いと酸性、高いとアルカリ性で、飲料水の基準はpH5.8以上8.6以下となっています。水温は8度~12度が最適とされています。ここで紹介している3つのジオパークを代表する湧水は、いずれも喉ごしのやわらかい軟水で、pH値、水温ともおいしい水の要件を満たす名水といえます。

あぎたのジオパークイベントでは、地域の名水でコーヒーを提供する「ジオカフェ」が人気です。



道の駅と産直施設

八峰白神ジオパーク

道の駅・みねはま ポンポコ101 MAP-P51 ㊦

八峰町の南玄関口にあり、峰浜地区特産の石川そばを味わえる「道のレストランはっぽう」と、産直施設「おらほの館」を併設しています。

- 所在地 八峰町峰浜沼田字ホンコ谷地147-6
- お問い合わせ ☎0185-76-4649



軽食コーナーでは、“ちそう(地層)ソフトクリーム”が話題。海のめぐみ・塩ソフト、大地の恵み・みそソフトのミックス味が楽しめます。



おらほの館 MAP-P51 ㊦

「自然まるごといきいき野菜・石川そば」がキャッチフレーズ。地元産の新鮮な野菜がスラリと並び、お惣菜の種類も豊富です。

- 所在地 道の駅・みねはまと同じ
- お問い合わせ ☎0185-76-4649
- 営業時間 9:00～17:30
- 定休日 年始を除き無休

道の駅・はちもり お殿水 MAP-P51 ㊦

岩館地区のジオサイトめぐりの拠点として利用できます。敷地内にある白神山(うしろ)を源流とする名水・お殿水でのどを潤しましょう。

- 所在地 八峰町八森字乙の水72-4
- お問い合わせ ☎0185-78-2300



産直施設 ぶりこ MAP-P51 ㊦

「ぶりこ」はハタハタの卵のことで、「ハタハタ館」の前にあります。大漁旗が飾られた店内には、農産物のほか八森沖でとれた新鮮な魚が並びます。

- 所在地 八峰町八森字御処の台51
- お問い合わせ ☎0185-70-4020
- 営業時間 9:00～18:00
(11月～3月は9:00～17:00)
- 定休日 無休

産直センター湯の店 MAP-P53 ㊦

スーパーマーケットのように広い店内には、大湯村産のお米だけでなく新鮮野菜が年間を通して豊富にそろっています。時々、聞きなれないニューフェイス野菜が登場するのも楽しみです。



- 所在地 道の駅・おおがたと同じ
- お問い合わせ ☎0185-22-4141
- 営業時間 8:00～18:00(野菜コーナーは～17:00)(11月～3月は9:00～17:00)
- 定休日 12/31～1/1

なまはげ直売所 MAP-P52 ㊦

季節の野菜や山菜のほか、ハタハタ寿しなど海産物の加工品、懐かしい味の手づくりお菓子が評判。なかでも海藻のエゴ草(エゴノリ)を原材料にした郷土食「エゴ」が人気です。

- 所在地 男鹿市北浦真山字白根板台
- お問い合わせ ☎0185-33-4188
- 営業時間 9:00～17:00(季節により変更あり)
- 定休日 火曜日



エゴ

ゆざわジオパーク

道の駅・おがち 小町の郷 MAP-P54 ㊦

秋田県の南玄関口にある観光拠点。小野小町伝説が色濃く残る小野・横堀地区や、院内、秋ノ宮など、湯沢市南部のジオサイトは、ここを足場にめぐるとよいでしょう。隣接してジェラートが人気の「こまちカフェ ポスコ」、農産物直売所「野菜こまち」があります。

- 所在地 湯沢市小野字橋本90
- お問い合わせ ☎0183-52-5500



野菜こまち MAP-P54 ㊦

採れたての野菜のほか、山菜、きのこや果物といった湯沢雄勝地域を代表する季節の商品が並びます。地元高校生が商品開発した地熱で乾燥させたさくらんぼ「ミッチェリー」は、期間限定でここで販売しています。

- 所在地 道の駅・おがちと同じ
- お問い合わせ ☎0183-52-5525
- 営業時間 9:00～18:00
(11月～6月は9:00～17:00)
- 定休日 無休



ミッチェリー



乾燥野菜のきりぼし大根

あぐり館みなせ MAP-P54 ㊦

地元のお母さんたちが栽培した旬の野菜、農産物加工品、手づくりお菓子が並ぶ産地直売所。小安峡の温泉水でゆであげ、地熱でじっくり乾燥させてつくる乾燥野菜なども販売しています。

- 所在地 湯沢市皆瀬新処97-2
- お問い合わせ ☎0183-47-5450
- 営業時間 9:00～16:00
(日曜・祝日は8:45～16:30)
- 定休日 無休 冬期間休業(11月中旬～4月下旬)

あきたのジオパーク お問い合わせ先・関連施設

八峰白神ジオパーク

八峰白神ジオパーク推進協議会事務局
〒018-2612 秋田県山本郡八峰町八森字ノケソリ116
☎0185-78-2427 Fax.0185-78-2388

八峰白神ジオパーク八峰町ホームページ <http://www.town.happou.akita.jp/index.php?pid=66>

- 八峰町観光案内所(八峰町観光協会) ☎0185-76-4100
- 八峰町文化交流センター・ファガス ☎0185-77-3700
- 八森いさりび温泉 ハタハタ館 ☎0185-77-2770
- あきた白神体験センター ☎0185-77-4455
- 八森ぶなっこランド ☎0185-77-3086

男鹿半島・大湯ジオパーク

男鹿半島・大湯ジオパーク推進協議会事務局
〒010-0595 秋田県男鹿市船川港船川字泉台66-1
☎0185-24-9104 Fax.0185-24-9156

男鹿半島・大湯ジオパーク公式サイト <http://www.oga-ogata-geo.jp/>

- 大湯村産業建設課 ☎0185-45-3653
- 男鹿総合観光案内所(男鹿市観光協会) ☎0185-35-5300
- 寒風山回転展望台(ジオパーク展示室) ☎0185-25-3055
- なまはげ館 ☎0185-22-5050
- 男鹿水族館GAO ☎0185-32-2221

ゆざわジオパーク

湯沢市ジオパーク推進協議会事務局
〒012-8501秋田県湯沢市佐竹町1-1
☎0183-55-8195 Fax.0183-79-5057

ゆざわジオパーク公式ウェブサイト <http://www.yuzawageopark.com/>

- 湯沢市観光物産協会 ☎0183-73-0415
- 湯沢市雄勝観光協会 ☎0183-52-2200
- 道の駅・おがち こまちの郷観光案内所 ☎0183-52-5522
- 稲庭城 ☎0183-43-2929
- 川連漆器伝統工芸館 ☎0183-42-2410

男鹿半島・大潟ジオパークマップ

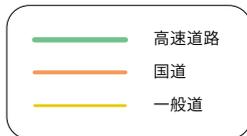
※地図上の赤色番号は、本文で紹介しているジオサイトやジオパーク関連施設に対応しています。

	高速道路
	国道
	広域農道
	一般道
	お山かけ登山道



ゆざわジオパークマップ

※地図上の赤色番号は、本文中で紹介しているジオサイトやジオパーク関連施設に対応しています。



ジオパーク Q&A

Q ジオパークとは？

A ジオパーク (GeoPark) の「ジオ (Geo-)」は「地球、大地」、「パーク (Park)」は公園を意味します。ひとこと言え、地球の歴史を学び、楽しむことができる「大地の公園」です。ただし、ジオパークは場所だけではなく、大地が育んだ多様な自然や生態系、そこで暮らす人びとの生活や文化もまた対象となります。つまり、ジオパークは「大地、自然、人びとの営みを学び、まるごと体感できるテーマパーク」ということができます。

Q 誰がジオパーク活動を進めているの？

A 「世界ジオパークネットワーク (GGN)」がユネスコ (国連教育科学文化機関) の支援を受けて、世界的な取り組みとして推進しています。GGNに認定された地域が「世界ジオパーク」を名乗ることができます。

Q 世界遺産との違いは？

A ジオパークは自然景観や地質遺産を保護・保全するとともに、それらを教育や防災に役立て、地域づくりに活かすことが求められます。保護と活用の両方を重視する点が、おもに保護を目的とする世界遺産とは異なる点です。一般の人が近づけない、あるいは保護のためには近づきたくないような場所は、ジオパークとはなりません。

Q 日本にジオパークはいつあるの？

A 日本の国内組織である「日本ジオパークネットワーク (JGN)」に認定された地域も、ジオパークを名乗ることができます。日本には36のジオパークがあり、そのうち7地域が世界ジオパークです。これ以外にも、ジオパークを目指している地域が多数あります。(2015年2月現在)

Q ジオサイトとは？

A 地質や地形、歴史など、そのジオパークを特色付ける見学地や、博物館・資料館などジオを学べる拠点施設がある場所のことをいいます。見どころのポイントだけでなく、ある程度の広がりのあるエリアを指すときにも使われます。

Q ジオパークを楽しむためには？

A 「なぜ美しいの?」「なぜこの場所にあるの?」「どうしてこんな形になったの?」「どうしてこんなにおいしいの?」—いろいろな「なぜ?」「どうして?」を見つけ、自分の五感をフルに活用してジオ (大地) を感じること、それがジオパークを楽しむコツです。

Q ガイドに案内してもらうには？

A 大地はことばを話すことができませぬ。大地の代わりに、みなさんに大地の物語を教えてくれるのがジオガイドです。秋田県にある3つのジオパークには、それぞれのジオパーク推進協議会が認定したガイドのいる組織があります。本書の「おらほのジオサイト」(p39)を参考に、各ジオパーク推進協議会事務局 (電話番号、URLはp55に掲載) にジオガイドの申し込みをしてください。また、各ジオパークでは、ガイドが案内するジオツアーを実施しています。機会があればぜひ参加してみましょう。

あきたのジオパーク みどころ ブック

.....

秋田県にある3つのジオパークでは、それぞれガイドブック、パンフレット、マップなどを制作し、より詳しくジオサイトを解説、紹介しています。入手方法などについては、各ジオパークの推進協議会にお問い合わせください(前ページに掲載)。パソコンをお持ちの方は、公式ホームページ(WEBサイト)から資料をダウンロードすることもできます。

.....

発行日 2015年(平成27年)3月

発行 秋田県企画振興部地域活力創造課
〒010-8570 秋田市山王四丁目1-1
TEL.018-860-1237

企画・制作 NPO法人あきた地域資源ネットワーク
〒010-0945 秋田市土崎港西三丁目9-15
チャレンジオフィスあきた303号
TEL.018-816-0610

制作協力 秋田県ジオパーク連絡協議会